



AICJ NEWSLETTER

2026
Feb.

AICJ中学・高等学校 〒731-0138 広島市安佐南区祇園3丁目1-15 TEL:082-832-5037

本校は、2009年に西日本第1号の国際バカロレア（IB）DP認定を受けた一条校で、生徒はグローバル社会のリーダーを目指し、学内外で様々な活動に取り組みます。

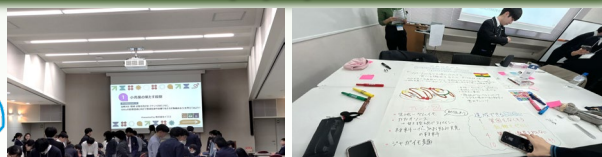
2025 SB Student Ambassador 中国ブロック



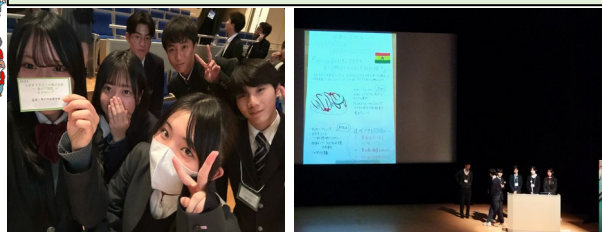
基調講演、合同会社シーベジタブルの新北成美様。



地元企業によるテーマ別講演
& パネルディスカッション。



ワークショップの様子。他校の生徒と混合チームでアイデアを形にします。



広島大学サタケメモリアルホールでの全体発表とその仲間たち。

「SB Student Ambassador ブロック大会」は、「サステナブル・ブランド国際会議 2026 東京・丸の内」に無料招待をさせて頂く、「SB Student Ambassador」の選考に向けての事前学習の場です。サステナブル・ブランド国際会議とは、国や職種、職業の垣根を越えて5000人以上が共通のテーマでディスカッションする国内最大級のサステナビリティに関するカンファレンスです。「SB Student Ambassador」として、選抜された学生には、地域の高校生 代表として、SB国際会議にて意見を発表する場が用意されます。

高1 福永 ひよりさんからのコメント
中国各県から集まった同世代の仲間たちとSDGsについて議論できたのは、とても新鮮で幅広い視点が養えた。今後はもっと勉強して、将来につなげていきたいと感じた。

ASEAN-Japan Peace Ambassador Project 2025



高1 饒 美希さんからのコメント
ASEAN加盟国の学生と意見交換をしたことで多くの学びを得ました。また、海外の同年代の学生と英語で交流し、平和についてディスカッションするのはとても貴重な経験でした。

「ASEAN-Japan Peace Ambassador Project 2025」とは国際交流基金とNPO法人Peace Culture Villageが、戦後80年を機に、日本とASEANの高校生を対象に、広島で「平和」を学び語り合う対話・交流プログラムです。専門家によるレクチャーや平和記念資料館での学習、宮島での体験、共同アート制作を通じ、異文化の若者が対話と共感を深め「次世代の平和」を探究する。平和継承を担う若い世代の育成を目指し、長期的な人的ネットワーク形成と継続的な事業発展を目指しています。



高2 淡野 瑛斗さんからのコメント
さまざまな背景を持つ仲間と語り合い、互いを理解しようとする姿勢こそが、平和の第一歩だと実感しました。学びも感動も多く、忘れられない経験になりました。

日本赤十字社 国際交流プログラム 茶道経験サポート



高1 清水 さくらさんからのコメント
私の拙い英語力でコミュニケーションが取れるのかと不安でしたが、言葉が違っても所作や心で通じ合えることを実感しました。日本文化を伝える楽しさや国際交流の大切さを学びました。



高1 藤山 愛梨さんからのコメント
英語で茶道を教えるのは初めてでしたが、海外の同年代の方が苦い抹茶や正座にも最後まで挑戦してくれて、うれしかったです。茶道を通して、国境を越えた交流は、私にとって貴重な経験となりました。

日本赤十字社 国際交流プログラムの一環として行われる留学生の茶道経験に、本校茶道部の4名が参加しました。縮景園清風館における上田流茶道の披露は、生徒にとっても貴重な経験です。お点前を見学していただいた後は、ネパールからの留学生に英語で説明しながら体験をしていただきました。会の終了後は「Let's take a walk together Syukkeien!」と声をかけていただき、縮景園を英語で案内しながら交流を楽しみました。



被爆80年人材育成特別プログラム



このプログラムは被爆者の想いを受け継いだ広島の高校生、広島大学やアイダホ大学の学生など、若い世代が核兵器を巡る国際情勢と歴史に関する知識を、日米両国での研修、ワークショップやディスカッションで深め、人類が進むべき未来を発信することにより、核兵器問題への人々の意識を変革し、核兵器のない平和な世界の実現に向けた足がかりをつくることを、目的としています。詳しくは



高2IB 西田 有寿さんのコメント

このプログラムを通して、核兵器問題についてさまざまな視点から学ぶことができました。核兵器をめぐる国際情勢について元外交官や国際NGO関係者等の平和分野の専門家の講義を受け、核抑止や、日本が核兵器禁止条約に参加していないことなど、国際社会には異なる考え方があることで問題を複雑にしていると感じました。また、フィールドトリップではアイダホ大学の学生との交流やシンクタンク訪問を通して、対話を重ねることの大切さを実感しました。その学びをもとに、ワースト・シナリオの作成に取り組み、そのような未来を防ぐために自分たちに何ができるのかを考えました。これらの経験を通して、核兵器問題は現状を理解したうえで個人が自分事として考え、被爆者の記憶を受け継ぎ伝え続けることが大切だと学びました。

第79回国民スポーツ大会 サッカー少年女子・広島県選抜 “優勝”



第79回国民スポーツ大会サッカー競技・少年女子の部において、広島県選抜が優勝を果たしました。広島県選抜は準々決勝で鹿児島に3-0、準決勝で愛知県に3-0で勝利し、決勝では大分県を4-0で下し、全国制覇を果たしました。今回の優勝は、サッカー少年女子・広島県選抜としては初めての快挙となり、広島県のサッカーの歴史に残る大きな成果となりました。本大会には県内各校から選抜された15名が広島県選抜として出場し、そのうちAICJ高等学校の生徒が6名選出されました。(※写真中央) 本校生徒も全国の舞台上で活躍し、この歴史的快挙に大きく貢献しました。

国際ハッカソン「Space Apps Challenge」 by NASA



高2IB 古賀美伶さん 川口エリさん ジェイコブ麻衣亜からのコメント

私たちはNASAが主催する国際ハッカソン「Space Apps Challenge」に宇宙会場から参加し、火星でのリサイクル課題に取り組みました。NASAのオープンデータを基に、数値の計算やリサイクル方法・施設のデザイン、リサイクル支援ツールの作成まで行いました。開発は夜を通して行われ、とても大変でしたが、それぞれの強みを活かして協力し、無事に作品を完成させることができました。その結果、私たちのチームは協賛賞の「ワクワク賞」と、投票で選ばれる「People's Choice 賞」をいただき、成果が形になってとても嬉しく思いました。今回の挑戦を通して、仲間と協力して、アイデアを形にする楽しさを改めて感じました。

